

国史跡青谷上寺地遺跡



出土物を門脇文化財主事(左)に確認してもらう生徒
= 5月下旬、鳥取市青谷町青谷の青谷上寺地遺跡

地域の宝学びと誇りを

国史跡青谷上寺地遺跡(鳥取市青谷町)を学びに活用する動きが地元の学校で広がっている。青谷高(小川勝校長)が選択科目で発掘体験などに取り組んできたほか、青谷中(松岡昭長校長)は本年度から、発掘現場や出土物に触れ年間を通じて学ぶ授業を始めた。関係者は「地域の誇り、故郷を見直すきっかけにしてもらいたい」と期待する。(渡辺暁子)

■もっと知りたい

「これ何ですか」「土器の破片だね。こっちは木の枝。見て、刃物で切ったような跡があるでしょ」。5月下旬、同遺跡の18次調査区。県埋蔵文化財センターの門脇隆志文化財主事にアドバイスを受けながら、発掘する青谷中2年生の姿があった。シャベルで掘った土の中から、弥生時代の遺物が次々と現れる。

「千年以上前のものが近くにあるのが不思議な感じ」と話すのは田中志織さん(13)と土橋心雪さん(13)。小谷峻一さん(13)は「遺跡のことは表面的にしか知らなかつ

地元で授業導入の動き

習する機会はなかった。河本俊顕教諭は「本物に触れることで、地域の財産を伝えていくことの大切さや自分たちができることを考える機会にしてほしい」と展望。「歴史をひもどく地道な作業は学問の原点」と学ぶ姿勢への効果も期待する。

一方、青谷高は一足早く、地域と連携した選択科目「青谷学」で遺跡を学ぶ機会を設けてきた。年々充実させ、本年度も2年生が約1カ月かけて座学や体験に取り組む。遺跡を調査研究する側も学校の動きを歓迎する。同センターの浜田彦彦係長は「こういった機会がなければ地元にある遺跡の魅力にはなかなか気が付かないかもしれない。体験を通じて関心が高まれば」と話す。

「できること」考える

ただ、もっとたくさん知りたくなつた」と笑顔を見せた。

青谷中は本年度、2年生の総合的学習と社会科で授業を開始。同センター職員に弥生時代の様子や遺跡の特徴について講義を受け、発掘や出土物の洗浄、パズルのような土器片を継ぎ合わせる地道な作業も体験する。今後はさらに講義を受けたりレポートをまとめるなどし、秋の文化祭で学習の成果を発表する予定だ。

■本物に触れる

同遺跡は出土した人骨から脳が見つかると全国的に注目を集めるが、生徒が体験したり詳しく学